

「銀河のしずく」に適する肥効調節型肥料

【1 成果概要】

- (1) 幼穂形成期頃に窒素溶出が大きくなり、玄米タンパク含有率への影響を小さくするため出穂期以降の溶出量が少なくなる「銀河のしずく」専用肥料（以下、専用肥料）を開発しました。
- (2) 基肥と幼穂形成期追肥に速効性肥料を用いた栽培（以下、対照）と比較し、一穂粒数がやや少なくなるものの収量はほぼ同等確保できます。
- (3) 専用肥料を用いることで玄米タンパク質含有率の大幅な増加、品質低下は認められません。

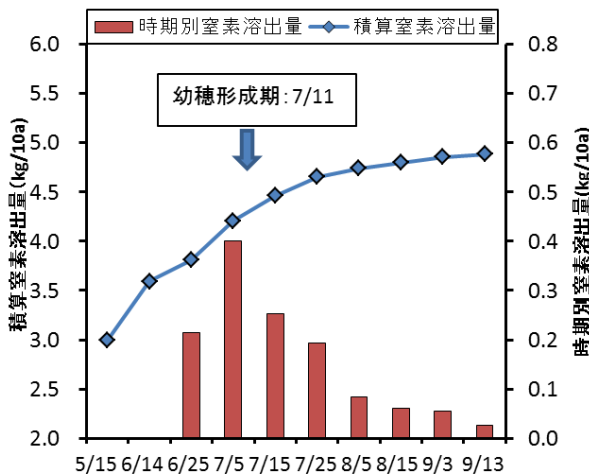


図1 積算窒素溶出量と時期別の窒素溶出量

専用肥料の窒素構成
速効性肥料:LP50:セラコート R50
=60:20:20

表1 玄米タンパク含有率（乾物あたり%）

試験年	試験場所	対照	専用肥料
2017	農研	7.3	7.2
	紫波	7.0	7.1
	住田	7.6	7.2
2018	農研	7.8	7.5
	紫波	7.4	7.3
	住田	7.3	7.3
	宮古	7.3	7.2

専用肥料によって玄米タンパク質含有率の大幅な増加は見られません。

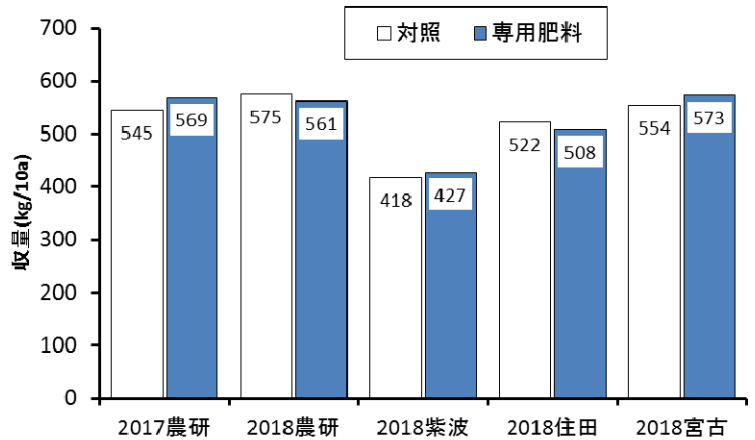


図2 収量調査結果

場内2ヵ年と現地圃場での試験の結果、専用肥料の収量は対照と同等でした。

表2 収量構成要素と品質

試験区	2017		2018	
	対照	専用肥料	対照	専用肥料
穂数(本/㎡)	374	376	328	329
一穂粒数(粒)	68.7	67.4	84.7	80.8
㎡粒数(千粒)	25.7	25.4	27.8	26.5
登熟歩合(%)	90.5	93.3	93.4	94.5
千粒重(g)	24.5	24.0	23.6	23.6
検査等級	1等	1等	1等	1等

【2 留意事項】

- (1) 本試験の専用肥料の窒素施用量は対照の窒素施肥量の8割としています。現地での活用の際は慣行の施肥量や、圃場条件を考慮の上で決めてください。
- (2) この肥料は今後県内で市販される予定です。
- (3) 中干しが不十分な条件では土壌からの窒素供給が続き肥料の違いに関わらず高まる可能性があるため中干しを含めた水管理に注意しましょう。

担当研究室 環境部 生産環境研究室

〒024-0003 北上市成田 20-1

TEL. 0197-68-4422

FAX. 0197-71-1085